

那須の歴史
再発見!

那須町と 近現代の人々

vol.19



小平濱次郎 (1869-1955)

7月号は、那須硫黄鉱山株式会社社長である実業家・小平濱次郎を紹介しします。

小平濱次郎は明治2年、都賀郡野中村(現栃木市)で戸長を務めた小平重太の長男として誕生しました。父重太は山岡鉄舟と親交があり、濱次郎も門人だったといわれています。

濱次郎は、明治21年に栃木県立第一中学校(現県立宇都宮高校)を卒業後、東京高等商業学校(現一橋大学前身)を経て、明治27年に長崎商業学校(現長崎市立長崎商業高校)の教諭となりました。同年日清戦争に従軍し、明治28年には日本郵船株式会社に入社しましたが、明治37年に日露戦争が勃発すると再び従軍し、乃木希典の指揮下で經理などを担当しました。日露戦争後は、明治40年に明治製糖

株式会社(現DM三井製糖HD)に入社し、その後独立して那須硫黄鉱山株式会社を経営しました。

那須硫黄鉱山株式会社は、大正4年に噴気孔に石の煙道を作り硫黄ガスを導いて、硫黄を固形化する方法を開発しました。この方法により純度99・6%の硫黄を精製することが可能となり、昭和8年に那須は、全国第9位の硫黄産出額(2,117トン)を誇りました。また採掘した硫黄は鉱山事務所から弁天温泉前まで自動車道、そこから那須湯本まで土樋で運搬しました。土樋で硫黄を運搬する光景は、当時那須の観光の目玉でもあり、絵葉書にその様子が遺されています。硫黄採掘は産業・観光の両面で那須の経済をけん引していました。

また濱次郎は昭和天皇との関係も深く、大正15年には、当時皇太子であった昭和天皇が那須硫黄鉱山事務所を訪れ、昭和6年には昭和天皇・鈴木貫太郎侍従長に濱次郎も同行して茶臼岳を登山しています。濱次郎の死後、硫黄鉱山は

衰退をたどり廃鉱となりました。鉱山事務所跡地は、現在の茶屋駐車場として観光客に利用されています。茶臼岳登山の際には、硫黄鉱山の痕跡を探すのも一計かもしれません。

(写真は土樋で硫黄を運搬する様子)

▼問合せ 那須歴史探訪館
☎74・7007



茶臼岳上 硫黄運搬 (那須硫黄鉱山)

かつこう



八溝山周辺地域定住自立圏(※)では、活動の一つとして、お互いの市町のPR情報を広報紙に掲載しています。5月号は大田原市の祭りや行事、6月号は那須塩原市のラーメンマップでした。今月は那須町の番です▼夏のレジャーの一つにトレッキングがあります。トレッキングは山の中を散策して、無理せず自然を楽しむことを

目的としています。私は、トレッキングをしています。自分は思い浮かべてみました。真新しいウエアを身にまとい、リュックを背負って、ストックをついています。途中、小さくかわいらしい草花に笑みを浮かべながら、ゴツゴツとした地面を踏みしめて進んだ先には、水色の世界が広がります。私は圧倒されながらも、疲れた体に、その水色の空気をいっぱい吸い込むのです▼専門的な道具を使わずに山を登ったり、山麓を歩いたりす

るトレッキングですが、十分な装備を用意するなど入念な準備が必要です。事前準備をしっかりと行い、山登りの魅力を感じたいものです。初心者の方は、のんびりと歩けるルートから始めるのがいいかもしれません。(関連記事22ページ)
(※)栃木県大田原市、那須塩原市、那須町、那珂川町、福島県棚倉町、矢祭町、埴町、茨城県大子町の2市6町により形成され、安心な暮らし、交流の活発化、地域課題解決等に取り組んでいる。

こんにちは

赤ちゃん



令和5年1月生まれ

きむら そらひこ
木村 空彦くん



そらひこくんは…

お兄ちゃん大好き！よく笑う男の子です。

「こんにちは赤ちゃん」コーナーの写真を随時募集しています。詳しくは企画政策課広報広聴係(☎72-6935)まで。

町の世帯と人口

(6月1日現在・住民基本台帳) ()の数字は前月比

・世帯数 10,744 世帯 (+14)
・人口 24,186 人 (-27)
男 12,037 人 (-9)
女 12,149 人 (-18)

出生 5 人 (+ 1)
死亡 43 人 (+ 15)
転入 96 人 (- 29)
転出 84 人 (+ 6)
その他 1 人減

広報那須がスマートフォンなどで読むことができます



マチイロ

